

東郷町乗合タクシー 第一期実証実験

結果

目次

実験概要	1
利用状況	3
利用者アンケート調査結果（通常の実証実験）	6
利用者アンケート調査結果（臨時の実証実験）	12
非利用者アンケート調査結果.....	17
まとめ	21

実験概要

1 目的

- (1) デマンド型交通について体験する機会を提供し、町民に周知すること。
- (2) デマンド型交通における需要や課題を把握すること。

2 対象者

東郷町内在住の方で以下(1)もしくは(2)に該当する方

- (1) 満75歳以上の方
- (2) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持する方

3 実験期間

(1) 通常の実証実験

令和2年12月1日(火)から令和3年2月26日(金)

※土日祝日及び年末年始を除く

① 12月

諸輪、諸輪住宅、白鳥、御岳、押草団地北、押草団地南

② 1月

和合、白土、和合ヶ丘、北山台、西白土

③ 2月

傍示本、祐福寺、部田、春木台、部田山、清水

(2) 臨時の実証実験

令和3年3月15日(月)から令和3年3月26日(金)

※土日祝日を除く

町内の全地区を対象に実施

4 運行時間

午前9時から午後3時

5 利用料金

無料

6 利用回数

1人6回まで

7 乗降場所

東郷町内の指定場所（利用者自宅前、公共施設、病院、診療所、薬局、スーパー、バスターミナル）

8 予約

(1) 予約受付時間

午前9時から午後3時（土日祝日を除く毎日）

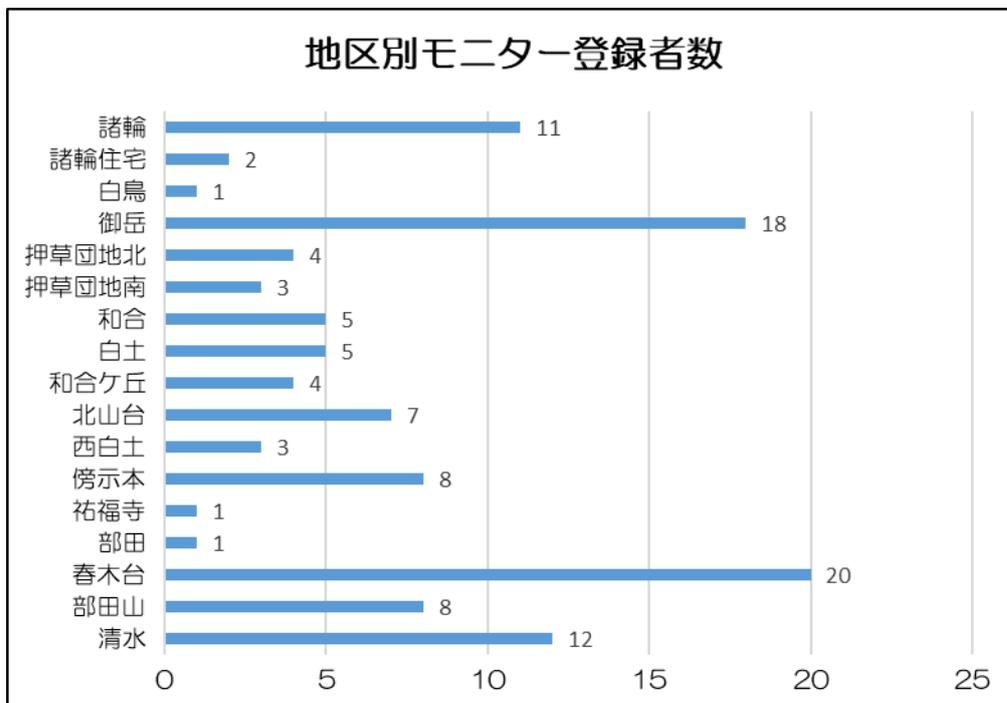
(2) 予約方法

モニター登録申請書を提出した対象者に利用券を送付する。利用者はそれを参照の上、利用希望日の7日前から前日までの予約受付時間内に運行事業者に電話予約。ただし、当日の車両に空きのある場合は、当日予約も可能。

利用状況

1 モニター登録者数

113人



2 実利用者数

(1) 通常の実証実験

35人（モニター登録者数の約31%）

(2) 臨時の実証実験

34人（うち、(1)で利用のなかった人5人、モニター登録者数の約30%）

3 モニター登録者の属性

① 満75歳以上の方

98人

② 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを所持する方

24人（うち、①にも該当する方9人）

4 予約及び利用件数

(1) 通常の実証実験

予約人数 193人
— キャンセル 14人
実利用人数 179人 (車両稼働回数 134回)

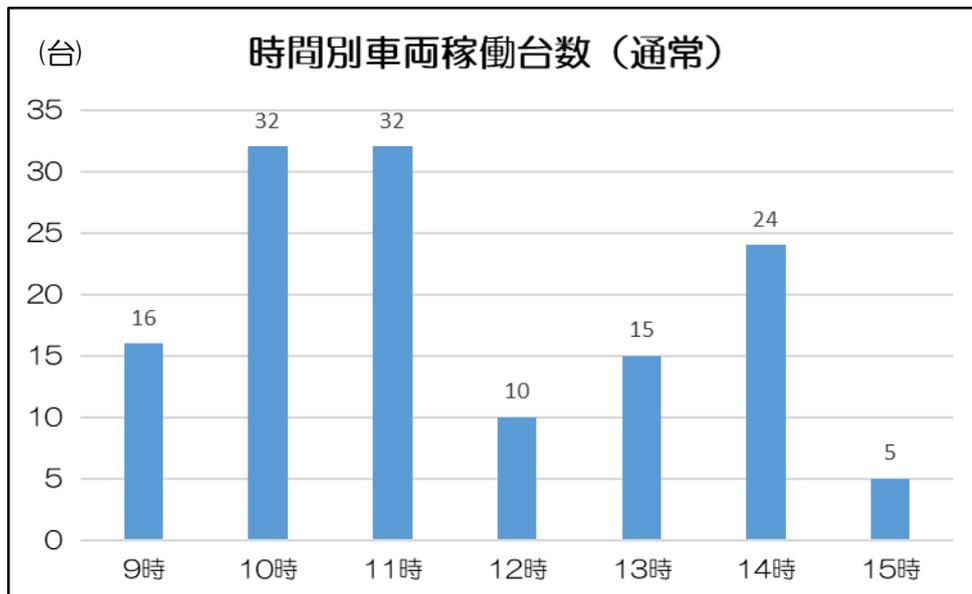
(2) 臨時の実証実験

予約人数 135人
— キャンセル 3人
実利用人数 132人 (車両稼働回数 106回)

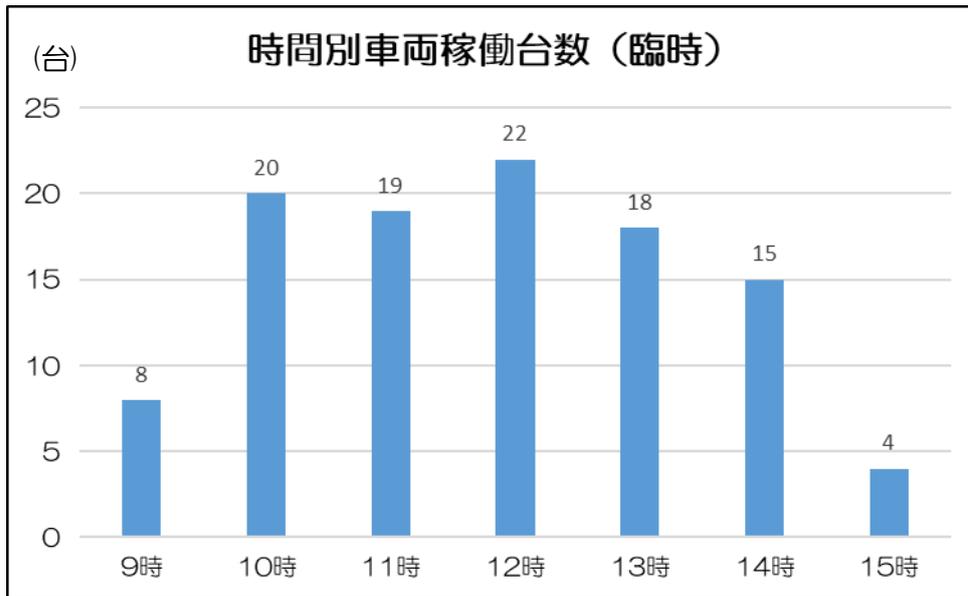
- ・ キャンセル理由としては、新型コロナウイルス感染症感染の懸念、他の予定ができた、体調不良等が大半。
- ・ 基本的に前日予約であるが、当日予約も受け入れており、通常の実証実験時は予約人数の約23%、臨時の実証実験時の約30%を当日予約が占める。
- ・ 乗合希望者の過多や希望時間の重複による予約不成立は発生していない。

5 時間帯別車両稼働台数

(1) 通常の実証実験時



(2) 臨時の実証実験時



6 乗合率

(1) 通常の実証実験時

1. 34

(2) 臨時の実証実験時

1. 25

7 一人当たり平均利用回数

(1) 通常の実証実験時

5.11回 (4週)

(2) 臨時の実証実験時

3.88回 (2週)

利用者アンケート調査結果（通常の実証実験）

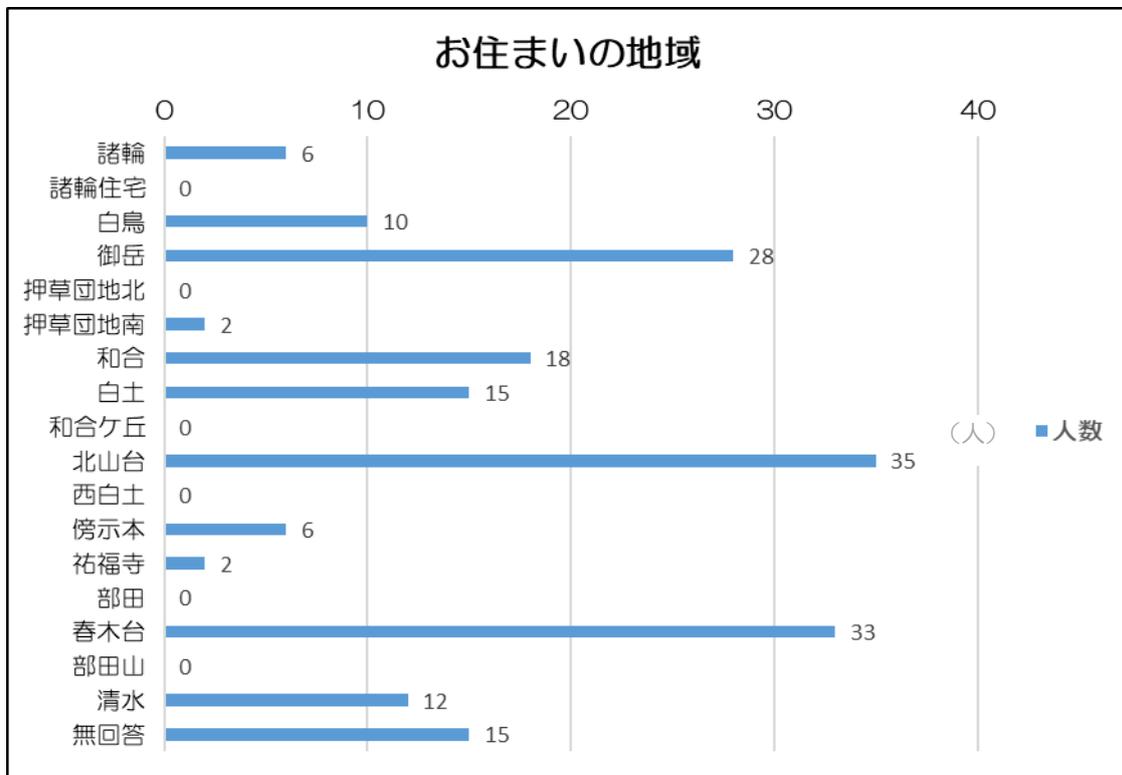
1 対象者

令和2年12月1日から令和3年2月26日の実証実験期間中、乗合タクシーに乗車した方。

2 回答者数（重複あり）

182人

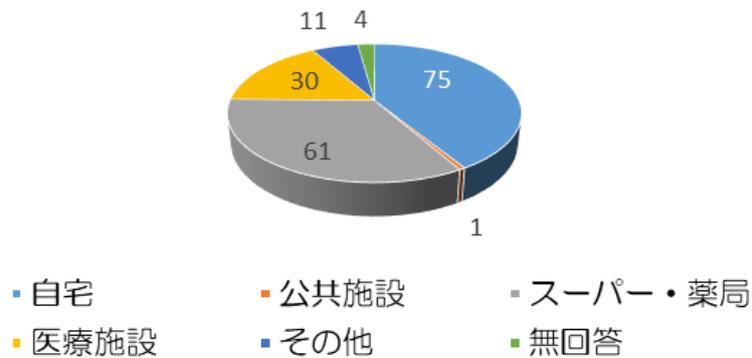
問1 お住まいの地域（行政区）はどこですか。



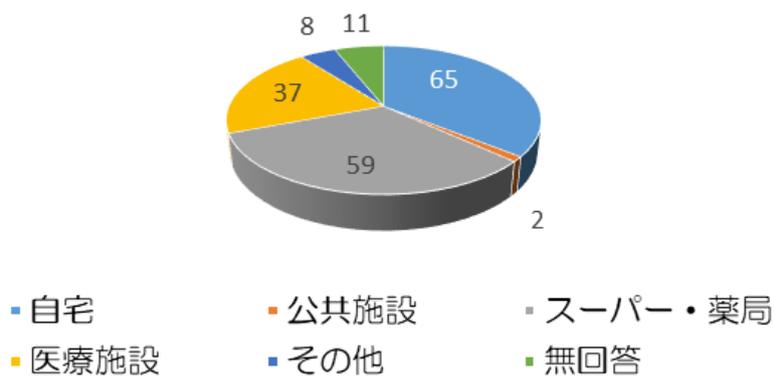
問2 今回はどこからどこへ行きますか。

- ・ 出発地・目的地ともに最も多いのは自宅で、続いてスーパー・薬局となる。
- ・ スーパー・薬局の利用では、出発地・目的地ともにららぽーと愛知東郷が最多。
- ・ 知り合いとともに予約する場合、出発地は1箇所で待ち合わせ、帰りは自宅まで乗るケースが複数あった。
- ・ 医療施設の利用では、特定の施設に集中することはなかった。

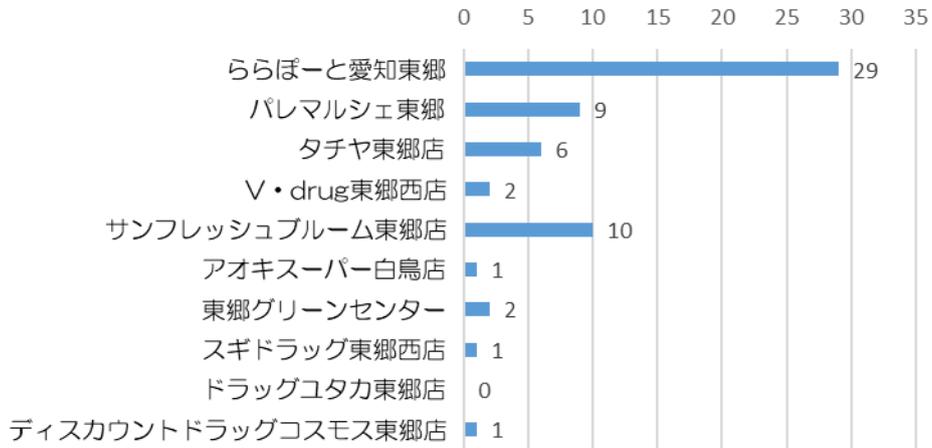
出発地（大分類）



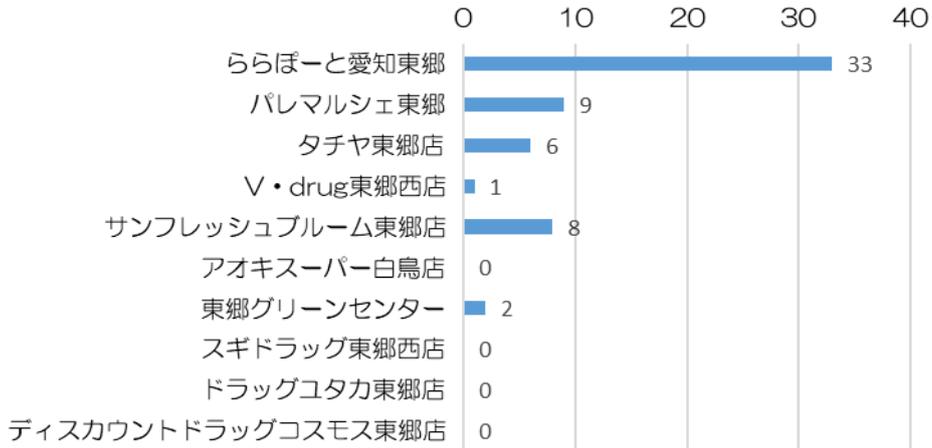
目的地（大分類）



出発地（スーパー・薬局）

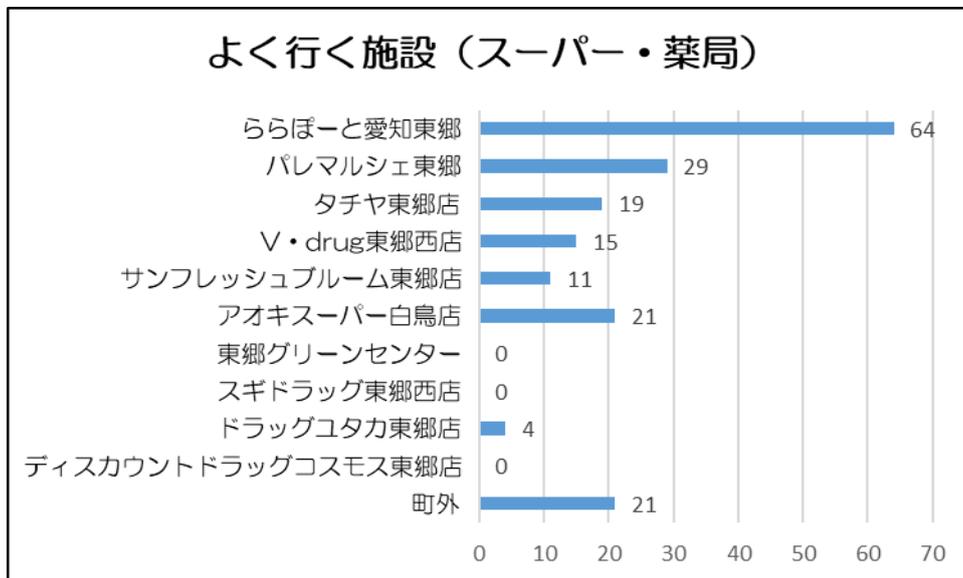
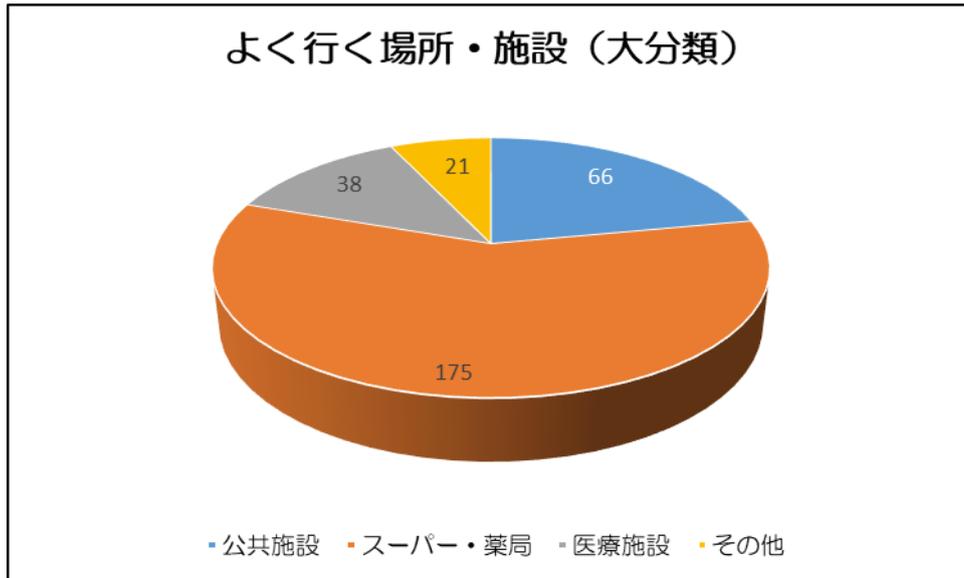


目的地（スーパー・薬局）

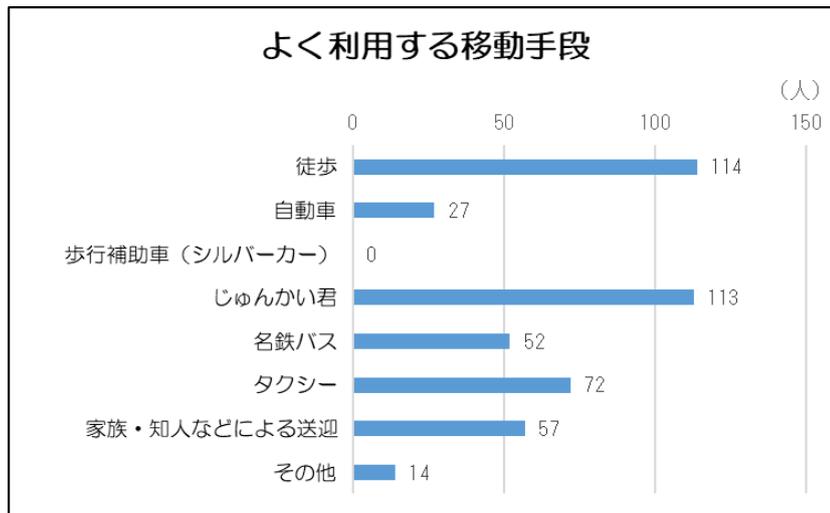


問3 よく行く場所や施設はどこですか（複数回答可）。

- よく行く場所・施設については、スーパー・薬局が約58%を占め、次いで公共施設が22%を占める。
- 近隣市の商業施設（プライムツリー赤池やイオン三好アイ・モール）や医療施設（藤田医科大学病院）を利用するという人も複数いる。



問4 よく利用する移動手段は何ですか（複数回答可）。

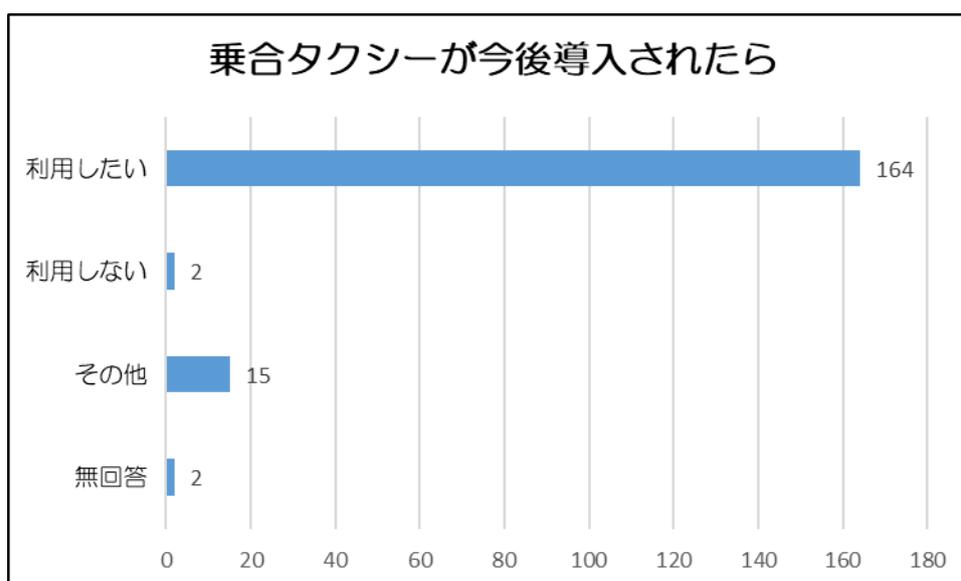


問5 今回、乗合タクシーを体験された上で気になったことは何ですか。

回答者数 115人

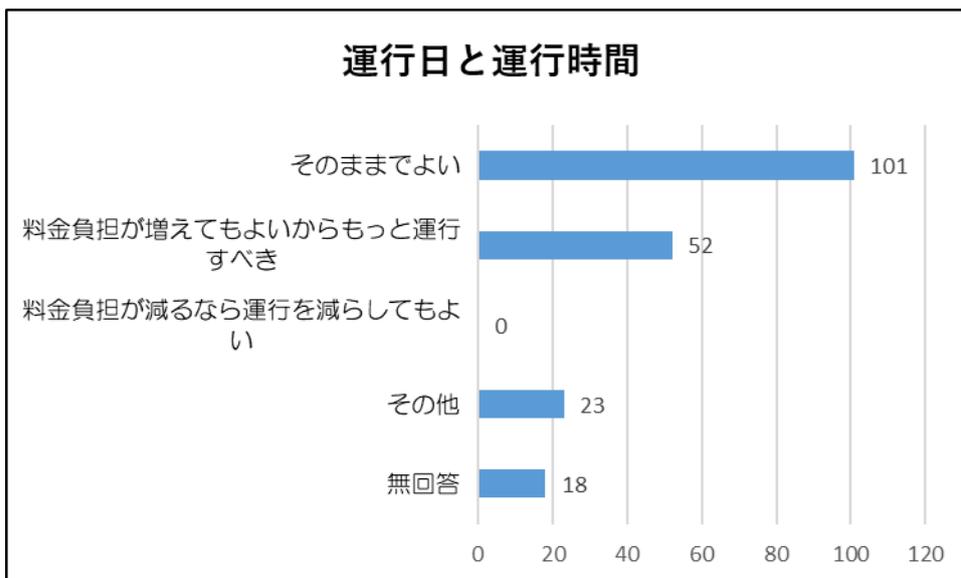
- ・ 「希望通りの時間に予約できてよかった」（11人）、「空いていてよかった」（4人）という主旨の感想があった。ただし、これは利用者数が増加するとマイナス面に変化するため、必ずしもそのようにならないという周知が必要。
- ・ 「近隣市にも行くことができる」とよい」（6人）という主旨の意見がある。

問6 乗合タクシーが今後導入されたら利用したいですか。



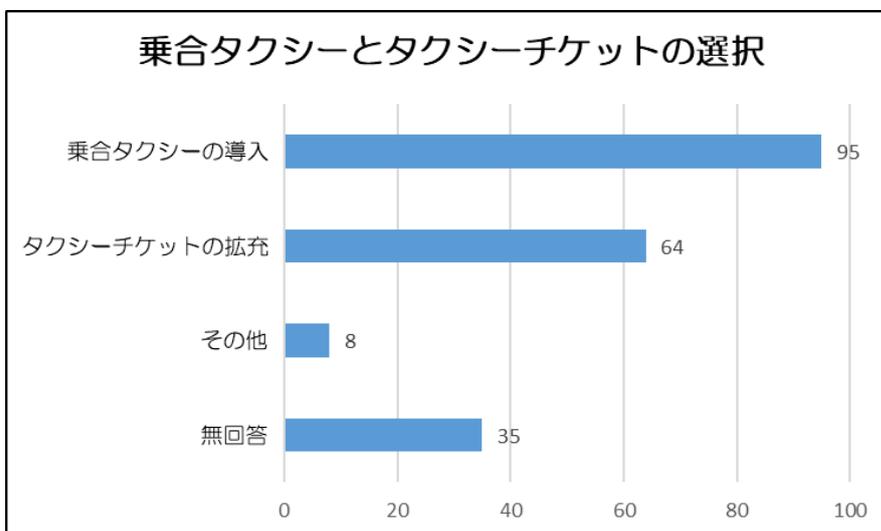
問7 運行日（土日祝日及び年末年始除く）と運行時間（午前9時から午後3時）について、どうお考えですか。

- ・ そのままでよいが約52%を占めている。
- ・ もっと運行すべきと選択した人（約27%）の中には、終了時間を遅くしてほしいという人もいる。



問8 今後は、「乗合タクシーの導入」と「タクシーチケットの拡充（対象者等）」、どちらがよいですか。

- ・ 乗合タクシーの導入を選択した人が約47%、タクシーチケットの拡充を選択した人が約32%いる。
- ・ どちらかを選択する設問であるが、中には乗合タクシーの導入とタクシーチケットの拡充のどちらも選択した人もいる。



利用者アンケート調査結果（臨時の実証実験）

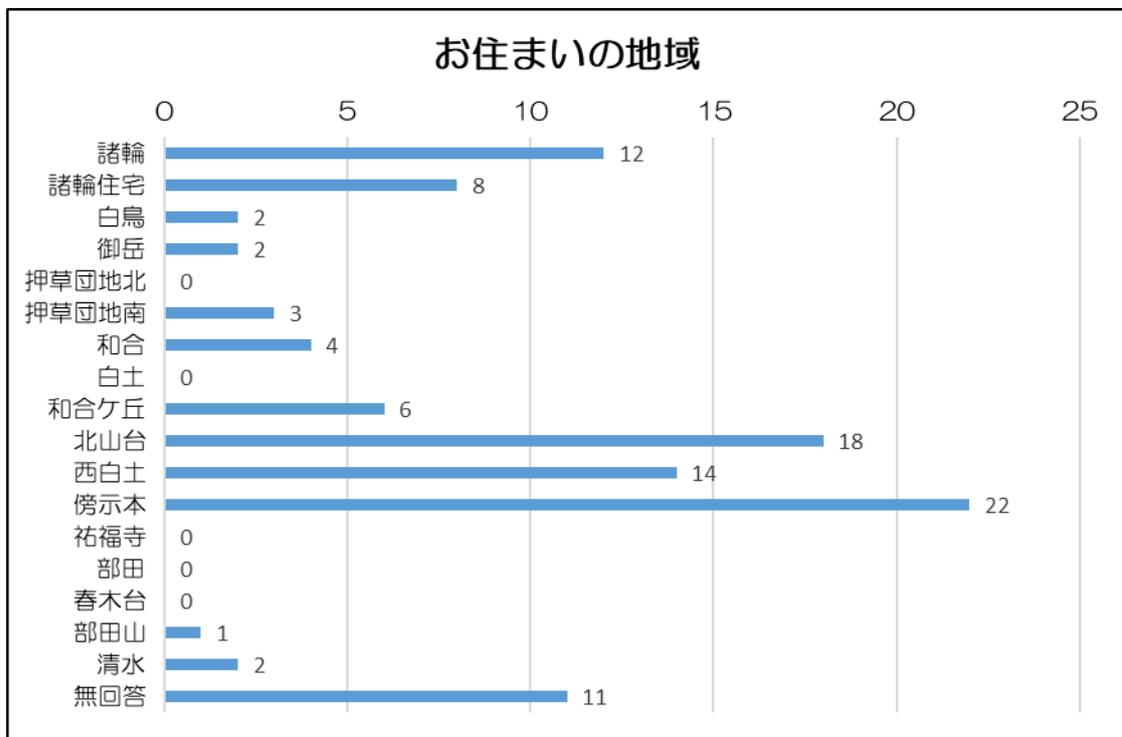
1 対象者

令和3年3月15日から3月26日の実証実験期間中、乗合タクシーに乗車した方。

2 回答者数

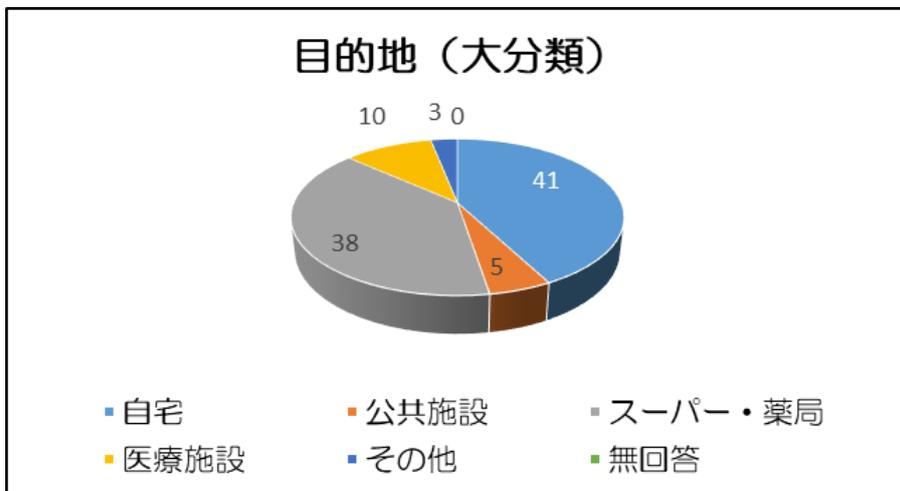
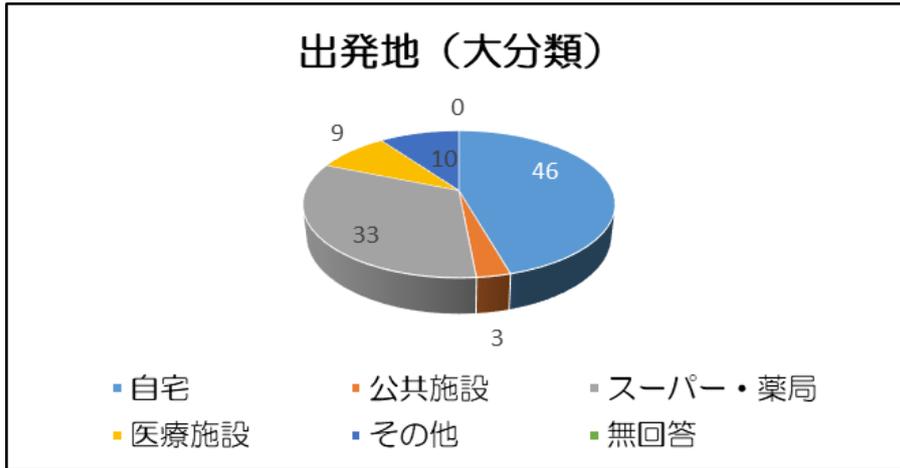
105人

問1 お住まいの地域（行政区）はどこですか。

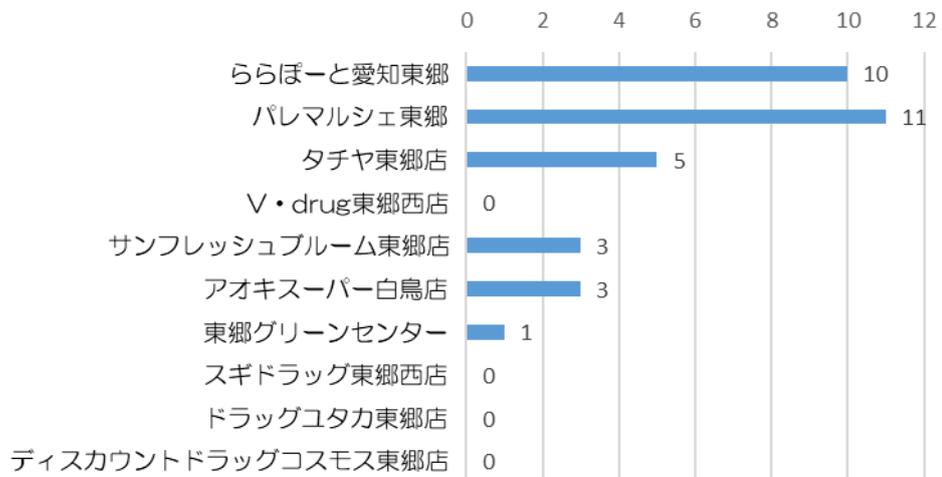


問2 今回はどこからどこへ行きますか。

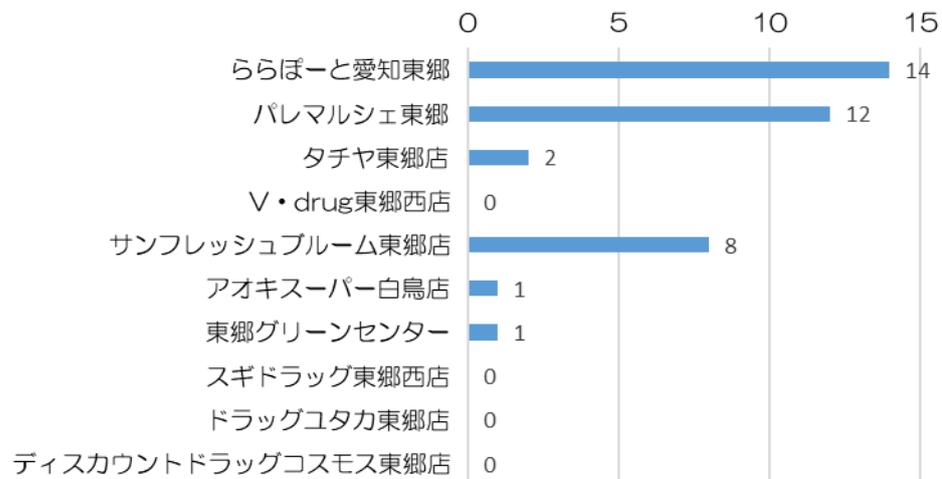
- ・ 出発地・目的地ともに最も多いのは自宅で、続いてスーパー・薬局となる。
- ・ スーパー・薬局の利用では、出発地・目的地ともにららぽーと愛知東郷及びパレマルシェ東郷が多い。
- ・ 医療施設の利用では、特定の施設に集中することはなかった。



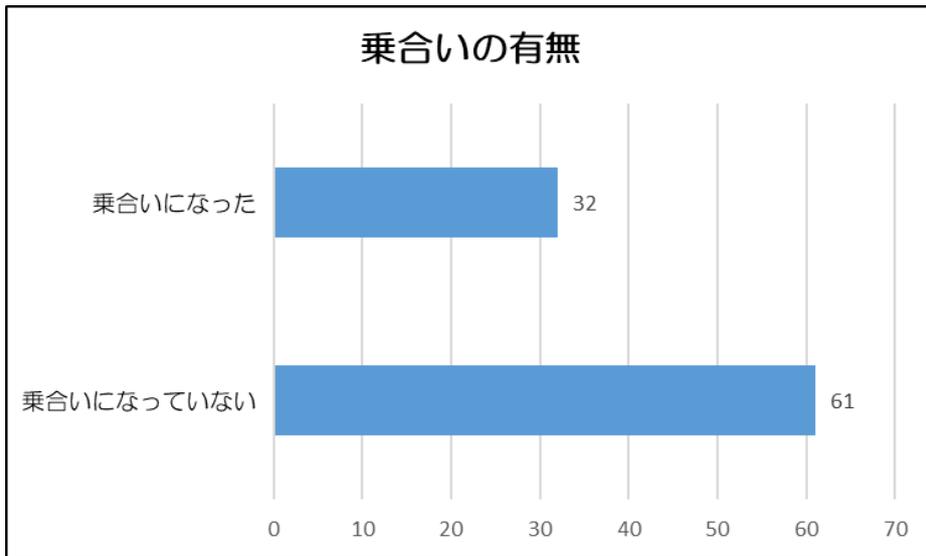
出発地（スーパー・薬局）



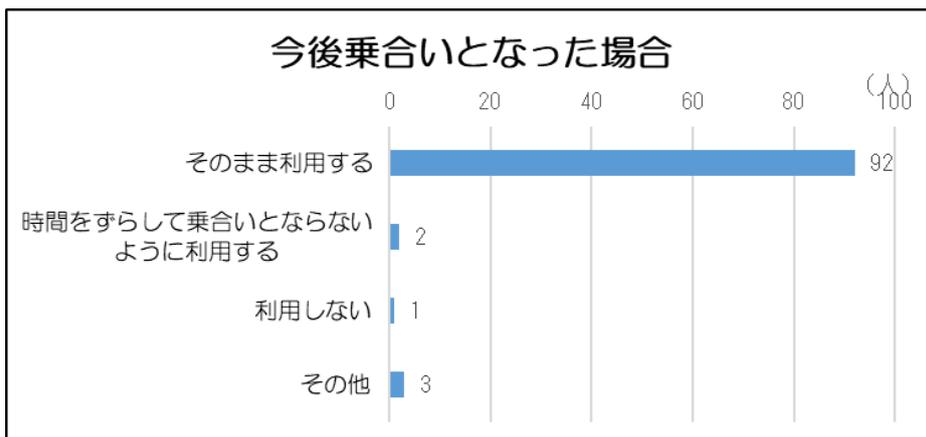
目的地（スーパー・薬局）



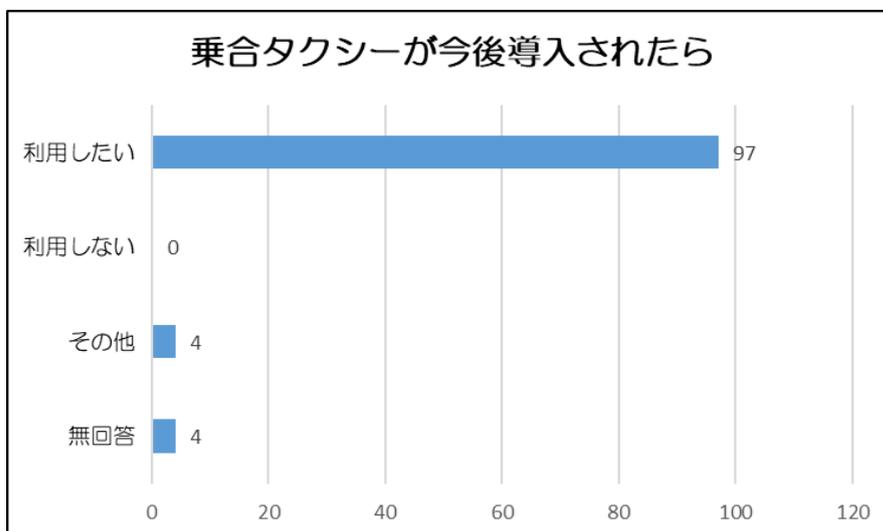
問3 今回の利用で、他の方と乗合いになりましたか。



問4 今後、他の方と乗合いになった場合、乗合タクシーを利用しますか。



問5 今後、今回のような乗合タクシー（町内全域を対象として予約受付）が導入されたら利用したいですか。



問6 今回のご利用で、お気づきの点がありましたらご記入ください。(自由意見)

回答者数 38人

- ・ 「ありがたい」(19人)、「続けてほしい」(5人)という感想があった。
- ・ また、「運行時間を16時までにしてほしい」(2人)、「土曜日も運行してほしい」(1人)という意見もあった。

非利用者アンケート調査結果

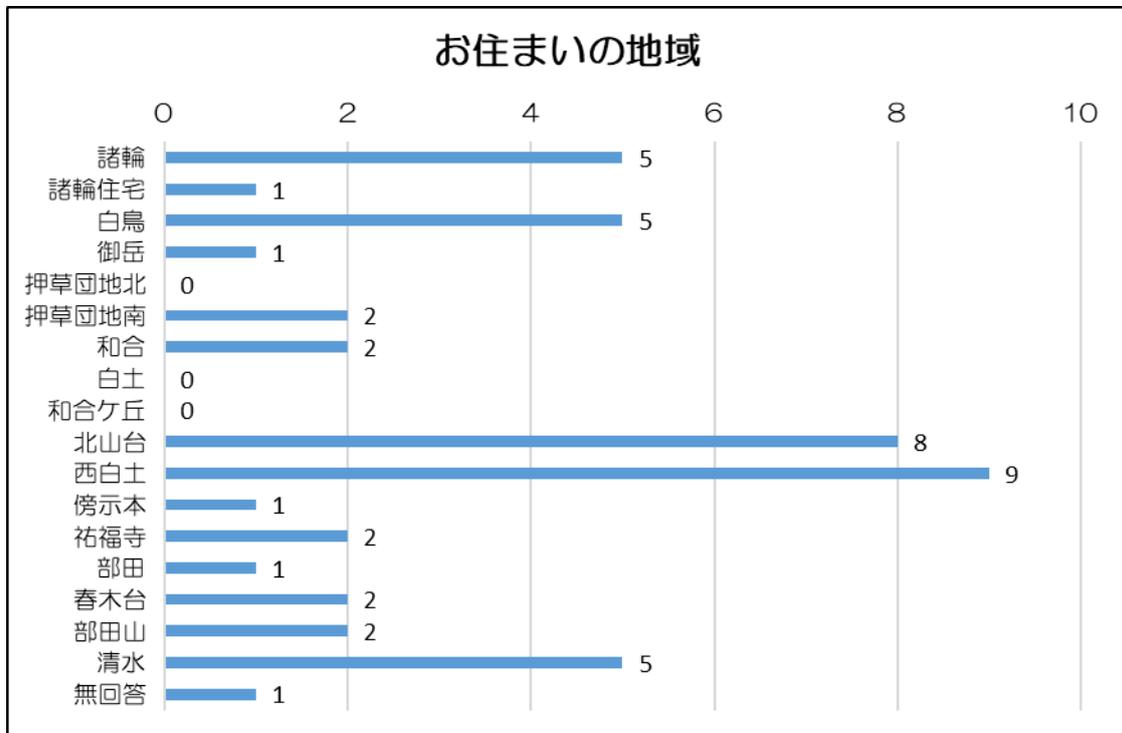
1 対象者

通常の実証実験（令和2年12月から令和3年2月）の期間において、モニター登録したものの、実際に利用しなかった方78人。

2 回答率

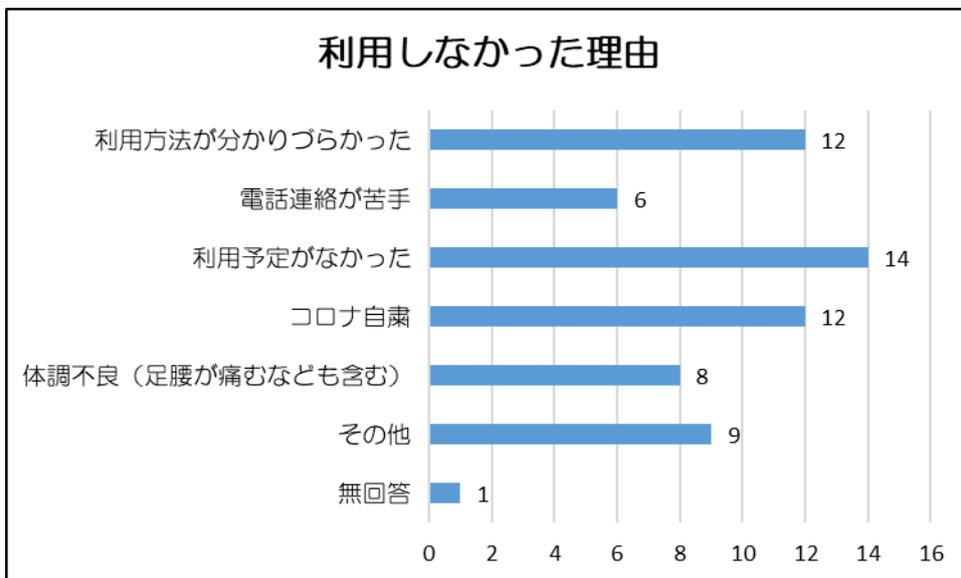
60.3%

問1 お住まいの地域（行政区）はどこですか。



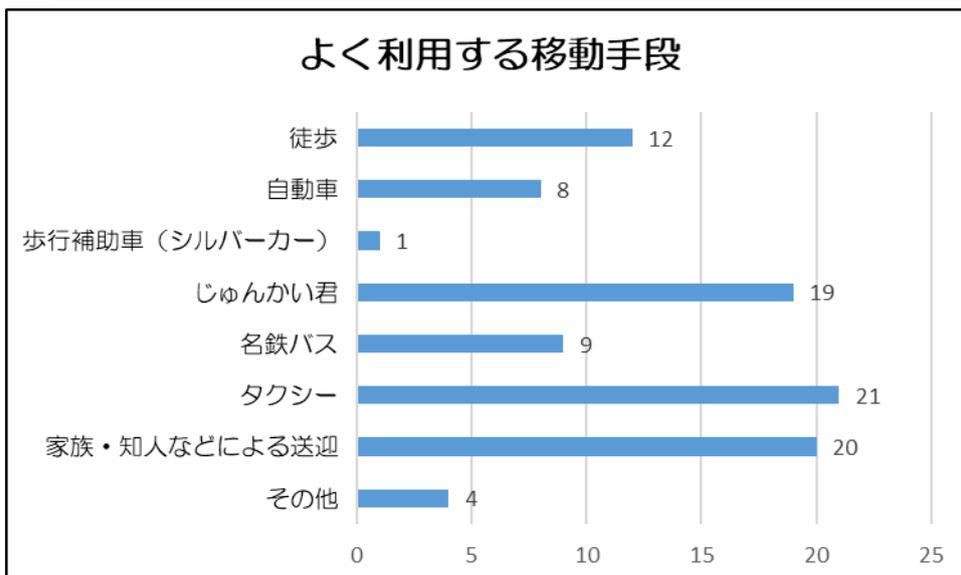
問2 乗合タクシーを利用しなかった主な理由は何ですか。

- ・ それぞれの理由に大きな差は見られない。
- ・ その他の理由として、「忘れていた」、「使いたい日時とタクシーの運行時間が合わない」、「帰りの利用の時間がよめない」等があった。



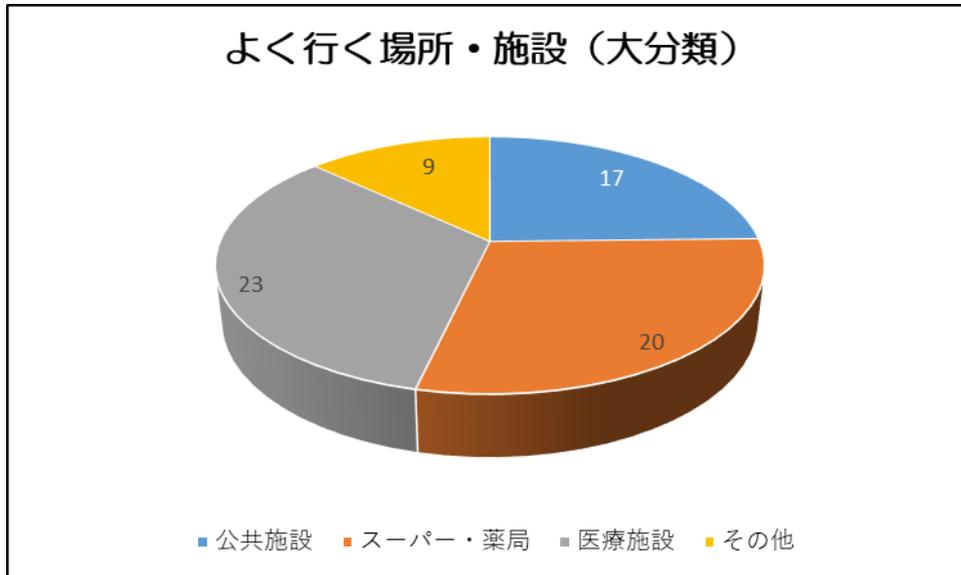
問3 よく利用する移動手段は何ですか（複数回答可）。

- ・ じゅんかい君やタクシー、家族・知人などによる送迎と回答した人が多い。
- ・ 利用者アンケートと比較し、徒歩の割合が低い。



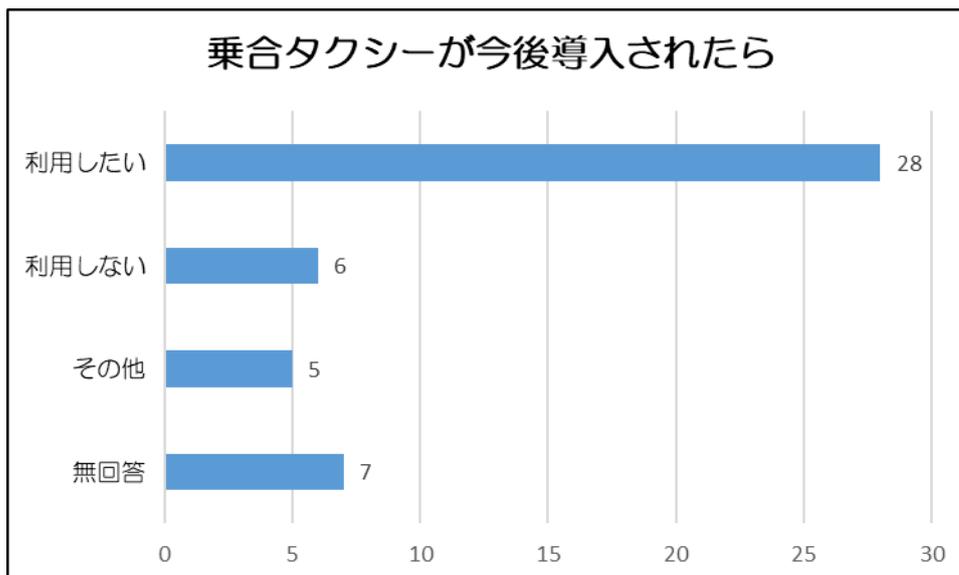
問4 問3の移動手段でよく行く場所や施設はどこですか（複数回答可）。

- よく行く場所・施設については、それぞれの項目に大きな差は見られない。



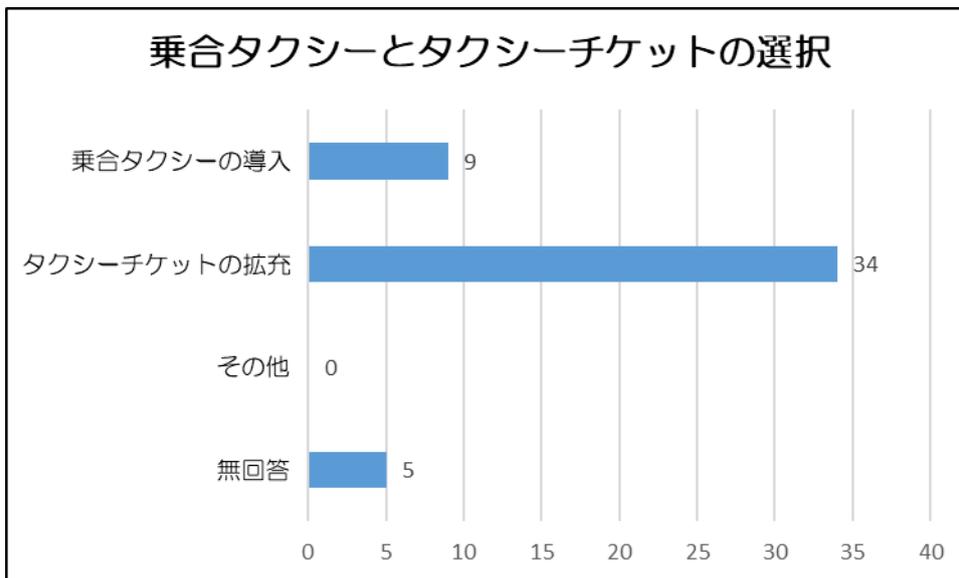
問5 乗合タクシーが今後導入されたら利用したいですか。

- 通常の実証実験の期間中、実際に利用していない方のみへのアンケート調査であるが、「利用したい」と回答した人が半数以上いる。
- その他として、自ら運転ができなくなったら利用したいと回答する人もいる。



問6 今後は、「乗合タクシーの導入」と「タクシーチケットの拡充」、どちらがよいですか。

- ・ 約71%の方が「タクシーチケットの拡充」を選択しており、実際に利用した方へのアンケート調査では、「乗合タクシーの導入」を選択した方が多く、真逆の結果となっている。
- ・ 回答者の中には町外の病院に通院している方がいること、乗合タクシーを利用した方と比較して普段からタクシーを利用する方の割合が多いことなどから、通常のタクシーの方が使いやすいと感じる方が多かったと思われる。



まとめ

- 利用状況及びアンケート調査から分かったこと

- 【利用状況】

- ・ モニターの対象となる75歳以上の町民の人口に対し、実際の登録者が約2.3%であった。
 - ・ 乗合率が通常の実証実験で1.34、臨時の実証実験で1.25であり、アンケート調査においても「空いてよかった」と回答している方がいることから、乗合いにならない運行があることが分かる。
 - ・ 利用回数が1人6回までに対し、一人当たりの平均利用回数が通常の実証実験（4週）で5.11回、臨時の実証実験（2週）で3.88回であることから、高い数値を示している。
 - ・ モニター登録者数が113人に対し、実利用者数が通常の実証実験の35人、臨時の実証実験で34人であることから、同一利用者が複数回利用していることが分かる。
 - ・ 時間帯別利用者数から午前中の利用の方が多いことが分かる。

- 【アンケート調査】

- ・ よく利用する移動手段について、通常の実証実験時のアンケート調査回答者のうち約25%が徒歩及びじゅんかい君、約16%がタクシー、約12%が名鉄バスを利用している。
 - ・ 運行日時については、約6割の人が「このままでよい」と回答している。
 - ・ タクシーチケットの拡充を求める意見も多い。

- 実証実験の目的に対する評価

第一期の実証実験の目的については、「デマンド型交通について体験する機会を提供し町民に周知すること」及び「デマンド型交通における需要や課題の把握すること」である。

→モニター登録者数113人で、実利用者数が通常の実証実験で35人、臨時の実証実験で34人と、周知や需要・課題を把握するには少数であった。

- 課題

- ・ モニター登録者が75歳以上の町民の2.3%にとどまることから、対象となる方が認知しやすい周知が必要。

- ・ 実際に乗合いを体験した上で意見をもらうため、利用者を増やすことが必要。
- ・ よく利用する移動手段について、通常の実証実験時のアンケート調査回答者のうち約25%がじゅんかい君、約12%が名鉄バスを利用しているということであった。このことから、バス停まで歩くことができる人が乗合タクシーを利用していることが分かるため、どのように役割分担するかも課題の一つである。
- ・ 費用対効果の面から、乗合タクシーを継続的に運行することが可能か検証する必要がある。